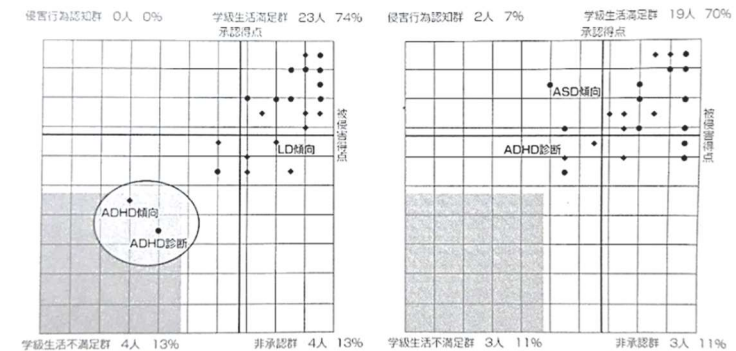


インクルーシブ教育に向けた「変化の主体」は教師であり(Pantic&Florian,2015)、インクルーシブ教育で最も重要な要素は教師である(Moen,2008)といわれる。まず教師の意識こそが、インクルージョンの理念に沿う形で変化しなければならない。



<第75次土佐清水市教育研究集会・半日教研>

11月 5日(水)に半日教研が開催されました。それぞれの部会で公開授業・研究協議や講師を招聘しての研修、実践交流等ができたものと思われます。

各部会の研修(公開授業・研究協議等)の様子を紹介します。

(1)〔探究的な学び部会〕

・公開授業:清水小4-1 国語「ごんぎつね」

授業者 川村 碧人先生

・講話「『問い』を持たせるための学習指導の在り方」

講師 幾田 伸司教授(鳴門教育大学)



(2)〔ふるさと教育部会〕

・ジオ学習

講師 土井 恵治さん(ジオパーク推進協議会)

【講話と竜串海岸等現地学習】

・実践発表交流(清水小、三崎小)、情報交換等



(3)〔なかまづくり部会〕

・各校の実践交流と質疑応答

・情報交換



(4)〔教育DX部会〕

・10/15(水)研究授業についての協議

清水中1-2 英語 New Horizon English Course

Unit 5 My brother in Hawaii

授業者 志村 留美先生

「生成AIを活用しながら、表現力を高める授業」

・実践交流、情報交換等



(5)〔養護部会〕

・保健調査票、結核問診票の見直し

・肥満指導について

・情報交換



(6)〔事務部会〕

・学校事務冊子の研究発表

・防災に関する事務研究等



=研究協力校の取組(防災教育)=

10月27日(月)三崎小学校で慶應義塾大学の大木聖子准教授をお招きし、全校児童、保護者、関係機関のみなさんが参加して防災講演会が開催されました。

今回は、防災学習の中でも風水害にポイントを置いたものでした。大木先生が、「10月のある日、けんくんは、おばあちゃんと2人きりで自宅に居ました。他の家族はみんな出かけています。昼過ぎから雨が降り始めました。自宅のけんくんとおばあちゃんが外の様子を伺っています」。16時、テレビに「『警戒レベル3』と流れます。自宅に居るけんくんになりきり『避難するかしないか』を判断し、意思表示をしてください」と問いかけました。

意思表示:【避難する】「レベル3からもっと上がると逃げられなくなる」など
【避難しない】「レベル3だから大丈夫だと思った」など

その後、大木先生は、気象や外の状況等の変化を2時間ごとに提示していきました。18時、20時と時間の経過とともに外の状況等も変化していきます。この時点でも「避難の有無について」問いかけました。

意思表示:【避難する】「雨の状況を見て避難した」、「避難している人がいたから」など
【避難しない】「危険と思い救助を待つ方がいいと思った」、「レベル3のままだから」など

22時に「警戒レベル4」が発令されました。同じくけんくんになりきり「避難するかしないか」を問いかけました。

意思表示:【避難する】「レベル4になり、家に泥水が入ってきたら逃げられなくなる」など
【避難しない】「外も暗くなり危険なので家にいた方が安全だから」
「おばあちゃんがいるから危険なので逃げられない」など

子どもたちは、それぞれの状況を見て判断しました。そして、その理由もしっかり発表することができていました。

まとめとして、「レベル3の状況で避難するかを判断する。ハザードマップを確認してください」と投げかけて終わりました。

【警戒レベル3】:避難準備 高齢者等避難開始
【警戒レベル4】:避難指示 地域住民全員が危険な場所から避難する

